

環境との共生をめざすライフスタイルの教育は可能か？
—— 環境学習支援ソフトウェア『私の家庭・みんなの地球』による試み ——
岐阜大教育 杉原利治

【目的】 環境との共生をうたう議論は多いが、ライフスタイルの獲得に関する本質的な問題やそこへ至るプログラムについては、ほとんど議論がなされていない。特に、ライフスタイルを教育の場で扱うには大きな問題がある。そこで本研究では、自作ソフトウェア『私の家庭・みんなの地球』を例にして、コンピュータを用いてライフスタイルを学習する場合の基本的な要件を考察し、環境共生のライフスタイルの獲得の方向性を示す。

【方法】 『私の家庭・みんなの地球』3部作《入門編》《学習編》《実践編》をQuick Basicでプログラミングし、これらの自作ソフトウェアを用いて環境問題を学習する場合の基本的な方法と環境教育のあり方について考察した。

【結果】 (1) 教育は、基本的に人間の能力を向上させるためにある。たとえ「地球環境を守る」ためであっても、それが自己目的化し、その目的に教育を従属させてはならない。

(2) 人間の能力を向上させるための教育を効果的に行うには、教育の内容と方法において、3つのF [Freedom (自由)、Freshness (新鮮さ)、Fun (面白さ)] が必要である。

(3) ライフスタイルは、個人のもつ『世界(観)』の大きさと質によって規定される。

(4) コンピュータソフトウェアは、学習者に、『世界』を提供する。その『世界』が広く奥深いほどソフトウェアは優秀であり、コンピュータを用いた教育は効果をあげる。制度的な自由(ソフトの選択、使用、改変の自由)は、効果的学習のための環境を提供する。

(5) ライフスタイルの教育には、マルチメディアも含めた新しい教育法が開発される必要がある。その方向は、従来の教育の概念を、学習へと変えるものであると考えられる。